CORE
Metadata, citation and similar papers at core.ac.uk

東北大学機関リポジトリ
TOUR
Tohoku University Repository

現代中国語と日本語における反使役化と脱使役化

著者	李　文超
学位授与機関	Tohoku University
URL	http://hdl.handle.net/10097/39841

平成２０年度（2008 年）修士論文

現代中国語と日本語における反使役化と脱使役化

国際文化研究科

国際文化交流論専攻　（言語コミュニケーション講座）

A7KM1020　李　文超

目次

第１章　動詞の自他交替・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
1.1　　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
1.2　　日本語と中国語の自他交替・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
1.3　　中国語の自他交替構文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
1.4　　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
7
第２章　語彙概念構造と日本語の自他交替・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
2.1　　語彙概念構造・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
2.2　　動詞の概念構造と項構造へのリンキング・・・・・・・・・・・・・ 9
2.3　　日本語の自他交替・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
11
2.4　　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
13
第３章　日本語動詞と中国語の対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
3.1　　語彙的対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
3.1.1　ゼロ形態素・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
3.1.2　日本語の-e-による反使役化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
3.1.3　反使役化の概念構造・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
3.1.4　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
3.2　複合動詞における反使役化と脱使役化・・・・・・・・・・・・ 21
3.2.1　中国語の複合動詞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
3.2.2　日本語の「反使役化」と「脱使役化」に対応する中国語の語彙的・統語的操作・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
3.2.3　中国語の結果複合動詞の構造・・・・・・・・・・・・・・・ 31
3.2.4　脱使役化における制約・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
3.2.4.1　内項制約・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
3.2.4.2　所有関係制約・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
3.2.5　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42

3.3　構文による日本語と中国語反使役化と脱使役化対応・・・・・・・ 42
3.3.1　使役構文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
3.3.2　存現文と処置文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
3.3.3　「在 zai」構文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
3.3.4　'得 de'による結果構文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
3.3.5 まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
第 4 章　結論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
謝辞　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 81
参考文献　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82

付表目次

表 1　非対格動詞ペアリスト　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53
表 2　他動詞対応の中国語複合動詞の分類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70
表 3　自動詞対応の中国語複合動詞の分類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73
表 4　他動詞用法の中国語結果性複合動詞(述補式)の分類・・・・・・・・・・・・・・ 77
表 5　自動詞用法の中国語結果性複合動詞の分類・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79

略号一覧

ACC: Accusative　（対格）

COMP: Complementizer　（補文標識）

CONJ: Conjunction　（接続辞）

DAT：Dative　（与格）

GEN：Genitive　（属格）

LOC：Locative　（場所格）

NEG：Negative affix　（否定辞）

NOM：Nominative　（主格）

PERF：Perfect　（完了相）

PROG：Progressive　（進行相）

第1章 動詞の自他交替

１．はじめに

本論文の目的は日本語と中国語における自動詞と他動詞の交替を対照分析することにより、動詞の意味構造の普遍性と個別性を明らかにすることにある。一つの同じ動詞または語幹が、自動詞にも他動詞にも用いられる現象は「自他交替」と呼ばれる。自他交替のうち、起動を表す自動詞と使役を表す他動詞の交替を特に「使役起動交替」（Causative/Inchoative Alternation）という。典型的には次のように、自動詞文の主語に当たる名詞句が他動詞文では目的語に対応する。

(1) a. The ball dropped out of the catcher's mitt.

b. The catcher dropped the ball.

このような動詞の自他交替については、動詞の意味構造や項構造、アスペクト、ヴォイスなどとの関連させつつ、多くの言語で研究されている。日本語においても、これまで、松下（1896）、山田（1908）、佐久間（1936）、奥津（1967）、須賀（1981）、金田一（1957）、井上（1976）、奥田（1978）、野村（1982）、三上（1953）など様々な研究者たちにより研究されてきている。

本研究では、これらの成果を踏まえて中国語と日本語における反使役化と脱使役化現象を、語彙意味論（lexical semantics）と認知論的な視点から分析し、以下の四点を明らかにすることにより、普遍性のある意味理論を提示することを試みる。

i. 日本語の自他交替動詞と対応する中国語動詞を分析しそれぞれの共通点と相違点
ii. 日本語の「反使役化」と「脱使役化」に対応する中国語の語彙的・統語的操作の特徴と性質
iii. 中国語複合動詞による脱使役化のパターン
iv. 結果性複合動詞を中心とした中国語の複合動詞の語彙概念構造

次節では、日本語の自他交替には語幹に自動詞・他動詞を形成する形態素を付加す

る場合が多いのに対して、中国語では日本語の他動詞に相当する動詞の大部分が、[Action + Resultative State] というスキーマによって構成された複合動詞に対応することを概観し、解決すべき問題を提示する。1.3 節では、日本語と中国語における反使役化と脱使役化の構文について、1.4 節はまとめと、本論文の構成について述べる。

１．２　日本語と中国語の自他交替

日本語の自他交替には、(I) 自動詞と他動詞が同形のもの、(II) 語幹に自動詞・他動詞を形成する形態素を付加するものの二つがある。(I) のタイプには「ひらく」(「ドアを開く」「ドアが開く」)、「発生する」(「有毒ガスが発生する」「有毒ガスを発生する」) などがあり、(II) のタイプには「壊す・壊れる」(KOWA-s-(r)u/KOWA-re-ru)、「立つ・立てる」(TAT-Ø-(r)u/TAT-e-ru)、「切る・切れる」(KIR-Ø-(r)u/KIR-e-ru) などがある。

中国語にも (I) 自動詞と他動詞が同形のもの、(II) 他の動詞と組み合わせて自他交替を表すものの二つがある。(I) のタイプには「开 kāi (開く)」(门开 mén-kāi (ドアが開く)・开门 kāi-mén (ドアを開く)) などがあり、(II) のタイプには、「坏 huài」(壊れる) や「切 qiē」(切る) などがある。ただし、(I) のタイプに属する単音節動詞は少なく、多くは (II) のタイプに属する。たとえば、「坏」(壊れる) は現代中国語には自動詞用法しかなく、「する、やる」に相当する軽動詞「弄 nòng」と連結して「弄坏 nòng-huài」とすることにより、他動詞として機能する。

(2) a.　计算机　坏了。
jì-suàn-jī huài-le
computerbreak-PERF.
「パソコンが壊れた。」

b.　宝宝　{*坏/弄坏}　了　计算机。
bǎobao { huài /nòng-huài} le jì-suàn-jī
baby break/do-break PERF computer
「赤ちゃんがパソコンを壊した。」

これに対して中国語「切 qiē」には「切る」に相当する他動詞用法しかなく、動作の

完了を表す結果補語「好 hǎo」と連結して自動詞とする。あるいは「断 duàn」には「折れる」に相当する自動詞用法しかなく、他動詞とするには「折 zhe」に後続しなければならない。

(3) a. 张三 把 树枝 {*断/折断} 了。
Zhāngsān bǎ Shù-zhī {*duàn/zhé-duàn } le
Zhang San ACC branch {break/break-break} PERF
「張三は枝を折った。」

b. 树枝 {断/*折断} 了。
Shù-zhī {duàn/*zhé-duàn} le
branch {break/ break-break} PERF
「枝が折れた。」

一見すると、日本語の自他交替を表す束縛形態素（bound morpheme）が中国語の自由形態素（free morpheme）「弄 nòng」「折 zhé」などに相当するように思われるが、そうではない。日本語の他動詞に相当する動詞の大部分が、望月（2004：237）の言う［Action + Resultative State］というスキーマによって構成された複合動詞に対応するのである。

Action を抽象的に表す軽動詞の一つが「弄 nòng」で、このスキーマに適合する複合動詞を形成するうえで、生産性が高い。例えば、「弄脏 nòng-zāng（汚す）」、「弄断 nòng-duàn（断つ）」、「弄错 nòng-cuò（間違う）」など、後項に形容詞または自動詞をともなって、他動詞を生産的に作ることができる。また、「ある状態にする」という使役化のみならず、「弄哭 nòng-kū（泣かせる）」のように非能格動詞を伴う使役化も可能である。また、単音節動詞の後に「好 hǎo」「断 duàn」など「終点、時間量、距離、動作の量、状態、結果」等の「限界点」を表す「補語」をつけて自他交替を表す動詞も多い（望月 2004：235）。

ではつぎに、(I) の自動詞と他動詞が同形のタイプのうち、日本語と中国語で対応しない例をみよう。まず、日本語の漢語動詞「出版する」は他動詞用法しかないのに対し、中国語の対応する複合動詞「出版 chū-bǎn」は自他いずれにも用いられる。

(4)a.　终于　出版　了　那本　论文。

zhōng-yú chū-bǎn le nà-běn lùn-wén

finally publish PERF that paper

「やっとあの論文を出版した。」

b.　那本　论文　终于　出版　了。

nà-běn lùn-wén zhōng-yú chū-bǎn le

that paper finally publish PERF

「*あの論文がやっと出版した。」

（望月 2004 から一部変更）

また逆に、日本語の漢語動詞では自他いずれにも用いられるのに対して、中国語の複合動詞では、自動詞用法しかないものもある。

(5)　a. 彼女はお花屋さんを開店した。

b.　她　{*开店/开}　了　一家　花店。

tā {kāi-diàn/kāi} le yi-jiā huā-diàn

she {open-shop/open} PERF a flower shop

(6)　a. お花屋さんが開店した。

b.　有　一家　花店　开店　了。

you yi-jiā huā-diàn kāi-diàn le

a certain flower shop open-shop PERF　望月（2004：237）

望月（2004：237）によれば、中国語の「开店 kāi-diàn」は、完全に語彙化されていない、VO の統語構造が反映された動詞句で、すでに目的語をもつ動詞句にさらに目的語をつけることができないため、他動詞用法がない。

では日本語と中国語の自他交替はどのように表示できるであろうか。以下、語彙概念構造に基づく分析案とそれに伴う問題点を指摘する。なお、語彙概念構造や反使役化・脱使役化など、理論的な詳細については第２章で詳しく紹介する。

まず、「开 kāi （開く）」（门开 mén-kāi （ドアが開く）・开门 kāi -mén（ドアを開く））

は、対象自身の内在的な性質による変化を表す反使役化、例文(4)の「出版 chū-bǎn」は使役主を意味構造で抑制した脱使役化による自他交替と考えられよう。

(7) *x* CONTROL [*y* BECOME [*y* BE AT-*z*]]
→ *x* (=*y*) CONTROL [*y* BECOME [*y* BE AT-*z*]]
| |
门 开

(8) *x* CONTROL [*y* BECOME [*y* BE AT-*z*]]
| | |
出版社 論文 社会
↓
∅

問題：脱使役化が日本語の「出版する」や中国語の「开店 kāi-diàn」(5b)ではなぜできないのか？　両者の違いは何に起因するのか？

つぎに、望月（2004：237）の言う［Action + Resultative State］というスキーマを語彙概念構造の分析と組み合わせてみよう。自動詞（能格動詞）用法しか持たない動詞「坏 huài」（壊れる）や「断 duàn」（折れる）は「結果（Resultative State)」を表す *z* の部分に相当し、「弄坏 nong-huài」（壊す)、「折断 zhé-duàn」（折る）の「弄 nòng」「折 zhé」は「行為（Action)」を表す CONTROL の部分に相当すると考えられる。「碎 suì」（砕ける）「打碎 dǎ-suì」（砕く）のペアも同様に分析できよう。

(9) *x* <u>CONTROL</u> [*y* BECOME [*y* BE AT-<u>*z*</u>]]
| |
弄 nòng／折 zhé 坏 huài／断 duàn

これに対して、他動詞「切 qiē」（切る）は動作の完了を表す結果補語「好 hǎo」と連結して自動詞となると考えられる。

(10) a. 切 qiē　　: *x*　CONTROL　[*y*　BECOME　[*y*　BE　AT-*z*]]

b. 切好 qiē-hǎo : *x*　CONTROL　[*y*　BECOME　[*y*　BE　AT-*z*]]　(*x*=*y*)

問題:「好 hǎo」以外にも「光 guāng」「掉 diào」などの完了を表す結果補語も、共起すると脱使役化が可能になる。その理由は何か？また、中国語の結果構文などとどのように関わるのか？

１．３　中国語の自他交替構文

中国語の脱使役化を引き起こす構文は二つある。一つは「存現文」（presentative sentences）と呼ばれる構文で、英語の所格倒置（locative inversion）や日本語の「テアル」構文によく似ている。もう一つは位置変化を表す動詞に着点や起点を付加することによる脱使役化である。

1.3.1 存現文（Place+Verb +着(zhe) +Theme）による脱使役化

場所を主語化することにより、外項が抑制される。

(11)　墻上　　挂　着　一幅　画

Qiángshàng guà　zhe　yīfú　huà

Wall-on　hang ASP　one-CLpicture

「壁に絵が掛かっている」

1.3.2　テアル構文

動作主を背景化する統語的操作として中国語の「存現文」に相当するのが、日本語の「テアル構文」である。この構文は状態ないし位置の変化を含意する動詞に付いてその行為が完了し、結果が残存していることを示す。

(12)a. 通行人がのぞきこまないために、まどには簾が掛けてある。

b.*通行人がのぞきこまないために、まどには簾が掛かっている。　影山（2000:36）

1.3.3　「在」構文である。

(13)　a.　　お菓子が鞄に詰まっている。

b. 点心　塞　在　书包　里.

diǎnxīn sāi zài shūbāo lǐ

cake package in satchel to

１．４　まとめ

本研究は、日本語研究から得られる知見を導入し、日本語と中国語動詞の調査結果を比較・対照することにより、これまで先行研究ではあまり取り上げられてこなかった日本語と中国語における反使役化と脱使役化現象を考察することを目的としている。本研究では、『日本語基本動詞用法辞典』（大修館書店出版）および、《汉语动词-结果补语搭配词典》（1987，北京语言学院出版社）に収録されている動詞や例文を言語資料として使用した上、『日本国語大辞典　第二版』小学館と『広辞苑　第 4 版』岩波書店をも参照し、日本語と中国語のそれぞれで自他交替する動詞リストを通じて詳細な分析を行っている。

本研究の構成は次の通りである。第 2 章では、具体的な考察をしていく上で、必要な認知的基盤を提供するために、まず、先行研究を参考しながら、日本語と中国語の反使役化と脱使役化について概観する。

第 3 章では、日本語と中国語の動詞について、それぞれに、語彙的、複合語、構文による対応を分析する。また、日中両言語の自他交替する操作の相違点から、複合動詞における脱使役化について仮説を提案する。

第 4 章では、本研究のまとめを行い、今後の研究の展望について述べる。

第２章　語彙概念構造と日本語の自他交替

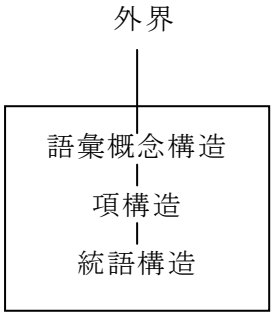
本章では影山（1996）に基づいて、語彙概念構造の概要について述べる。2.1 節では、語彙概念構造を概観し、2.2 節では概念構造と項構造の関係についてみる。2.3 節では影山（1996）による日本語の自他交替の説明を紹介する。2.4 節はまとめである。

2.1　語彙概念構造

人間が外界を知覚・認識してそれを言語化するとき、実際には、物理的に同じ事態を述べるのでも言語によって表現法が異なるのが普通である。このことから、外界と言語の間にはある種のフィルターがあると考えられる。このような物理世界の認知の仕方の言語表示を意味と呼ぶならば、そして意味の中でも特に、基本的、根幹的意味である概念的意味を表す構造を語彙概念構造（Lexical Conceptual Structure、略して LCS）と呼ぶならば、言語と外界認知のインターフェイスに位置するのが LCS であると考えることができる。また、概念構造は結びつけ規則（linking rule）によって項構造と対応関係を持ち、項構造はさらに統語構造に直接反映される。

(1)

外界と文法の関係



影山（1996:49）

概念構造によって表される概念的意味は言語表現の基本的、根幹的意味であるが、

単にそのような静的な表示であるだけでなく、組み替えや合成といった動的な操作を受けるという点で、文法内の一つの表示レヴェルと位置づけることもできる。

では、具体的な語彙概念構造を、動詞のタイプ別に見ていくことにしよう。

2.2　動詞の概念構造と項構造へのリンキング

動詞は一般に他動詞と自動詞に分けられるが、自動詞はさらに意図的な＜行為・活動＞を表す「非能格動詞（unergative verb)」と、＜変化＞＋＜結果状態＞を表す「能格動詞（ergative verb)・非対格動詞（unaccusative verb)」に下位分類される。

影山（1996:157）によれば、意味的な観点から言うと、能格動詞は変化の対象が自らの性質によって状態変化を被ることを表す動詞であり、使役主の捉え方によって他動詞になることもできる。一方、非対格動詞は外界からの作用を含まず自然発生的に生じる事象・状態を描写するもので、他動詞には成り得ない。(2) は各動詞型の項構造である。

(2) 他　動　詞：(x, y)　　外項（external argument）x は主に <動作主 Agent >
　　内項（internal argument）y は主に <主題 Theme >
　非能格動詞：(x　)　　外項は主に < Agent >（歩く、走る）
　能 格 動 詞：(　y)　　内項は主に < Theme >（割れる、決まる）
　非対格動詞：(　y)　　内項は主に < Theme >（降る、起こる）

y は動詞と密接な関係を持つ「内項」(internal argument) である。x は動詞との関係が弱い「外項」(external argument) を示し、統語的には主語として具現化する。

自動詞が外項のみをもつ非能格動詞と内項のみをもつ非対格動詞とに分類されるという主張は、影山 (1996:22-35) で述べられているように、日本語と英語で、さまざまな言語現象において、非対格動詞の主語が動詞と密接な関係をもつ内項としての性質を備えていること、即ち統語的には他動詞の目的語と同じ振る舞いをすることからも支持される。

さて、影山 (1996:第 4 章)では、(1)で同じく (　y) という項構造を持つ動詞のうち、open, break, burn, dry, sink のように同形態で他動詞と交替する「能格動詞」と、be, occur, happen, appear のように対応する他動詞を欠く「非対格動詞」とに区別されな

ければならない理由を論じている。また、両者は、統語的な資格としては、いずれも広い意味で「非対格性」即ち、内項しか統語構造に具現化しないという共通性をもつが、その意味構造は(3)のように、抽象的な述語概念で表示した「語彙概念構造」で表されるような相違をもつとしている。

(3) a. 非対格動詞：be, occur, happen, exist, remain, arrive, flourish, etc.

「おのずと然る」自然発生的に生じる事象・状態

[BECOME [*y* BE AT *z*]]

b. 非能格動詞：open, break, burn, dry, sink, change, freeze etc.

「みずから然る」変化対象が自らの性質によって状態変化を被る

使役主の捉え方によって他動詞になることもできる

[*x*=*y* CONTROL [*y* BECOME [*y* BE AT *z*]]]

Vendler（1967）は語彙的アスペクトにより動詞を四つに分類しているが、影山（1996:84-87）はその四つの動詞について、それぞれの概念構造を次のように定式化した。

(4) (A) States：know, believe

[STATE *y* BE [LOC AT *z*]

(B) Achievements: recognize, reach

[EVENT BECOME [STATE *y* BE [LOC AT *z*]]]

(C) Activities: run, walk

[EVENT x ACT (ON *y*)]

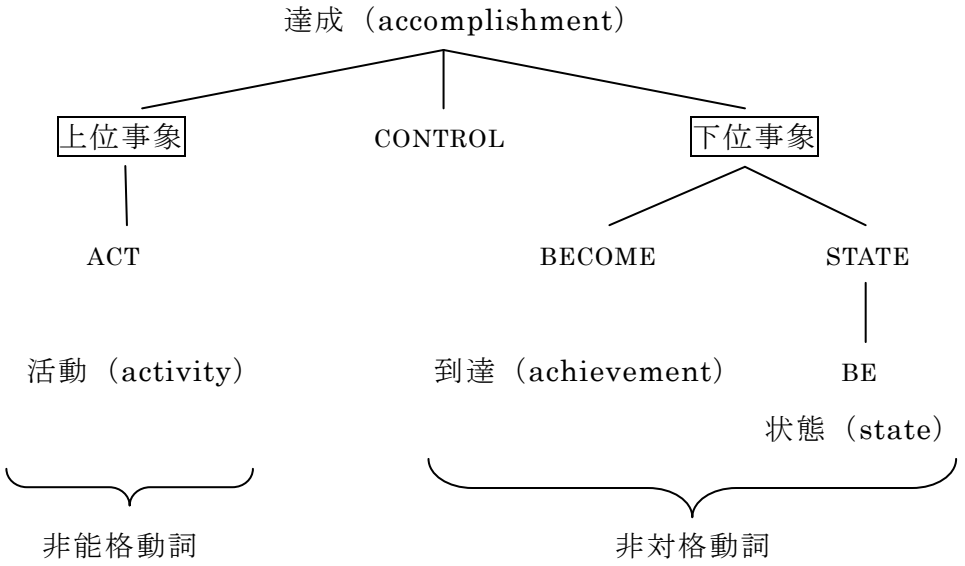
(D) Accomplishments: recover from illness, paint a picture

$$\left\{\begin{array}{l} x \\ [\ \text{EVENT}\ \ x\ \ \text{ACT}\ (\ \text{ON}\ y\ )\ ] \end{array}\right\}\ \text{CONTROL}\ \ [\ \text{BECOME}\ [\ y\ \ \text{BE AT-}z\ ]]$$

ここで、状態(A)と状態変化(B)は人間や外的原因が関与しない自然発生的な出来事ないし状態を意味しており、統語構造では非対格構造に対応する。他方、活動（C）は意図的に活動を持続する動作主が存在しており、統語構造では、非能格構造に該当する。

この二つのタイプの構造を合体したものが達成（D）である。D の構造では、使役作用となる活動が先にあり、その結果、何らかの状態変化がもたらされるから、これは使役他動詞構造に相当すると考えられ、次のように整理することができる。

(5)



影山（1996:90）

この構造では、使役事象は左側、結果事象は右側に並べることによって、上位事象と下位事象との時間的流れを捉えている。すなわち、時間とエネルギーの流れに沿って、先に使役事象が来て、その後に結果事象が続くことを表示しているのである。

非対格性の観点から言えば、下位事象だけを表す動詞は非対格動詞、上位事象だけを表す自動詞は非能格動詞、そして、上位事象と下位事象の両方を受け持つのが使役他動詞である。この三種類の構造において、下位事象の中に現れる主語は「内項」に該当し、上位事象に現れる主語は「外項」に相当する。

(6) [*x* ACT (ON *y*)] CONTROL [BECOME [*y* BE AT-*z*]]

↓ 外項　　↓ 内項

2.3 日本語の自他交替

前節では、非対格構造と非能格構造、そして使役他動詞構造についてみた。しかしながら、自動詞と他動詞の区別は固定したものではない。とりわけ日本語では自動詞

と他動詞を転換する接辞が非常に多い。ここでは他動詞から自動詞を派生する場合と、自動詞から他動詞を派生する場合を取り上げよう。

影山（1996:183-194）は能格動詞について、日本語の自動詞に現われる二種の接辞‘-e-’と‘-ar-’の意味機能の相違に着目し、両者は（7）に一般化されるような異なる用法をもつと述べている。

(7) a. ‘-e-’: 対象の変化は対象自身の内在的な性質によるもので、使役主を変化対象と「同定」（identification）する「反使役化」（anticausativization）によって自動詞化する。

x CONTROL [*y* BECOME [*y* BE AT-*z*]]]

→ *x* = *y* CONTROL [*y* BECOME [*y* BE AT-*z*]]]

例：割る/割れる、切る/切れる、離す/離れる、破る/破れる、折る/折れる、ほどく/ほどける、取る/取れる、抜く/抜ける、砕く/砕ける、煮る/煮える

b. ‘-ar-’: 対象の変化は外在的な要因によるものであるが、自動詞化接辞‘-ar-’は、使役主を意味構造で「抑制」（suppress）し、統語構造に投射しない「脱使役化」（decausativization）によって自動詞化する。

x CONTROL [*y* BECOME [*y* BE AT -*z*]]

↓

∅

例：決める/決まる、集める/集まる、掛ける/掛かる、植える/植わる、詰める/詰まる、まぜる/まざる、いためる/いたまる、儲ける/儲かる、ふさぐ/ふさがる、つなぐ/つながる、助ける/助かる

これとは逆に、自動詞から他動詞へ使役化する接辞には、‘-e-’と‘-as-/-os-’の二種類がある。影山（2000:195-198）では次のように定式化されている。

(8) a. ‘-e-’ :　意味述語 CONTROL を導入する。

変化対象はそれ自体では変化せず、主語になる動作主が（故意であれ不注意であれ）事態の発生を直接にもたらすことを表す。

出来事（event）は主語になれない。

x　CONTROL　[$_{EVENT}$　…]

｛大工さんが／*彼の持ち家願望が｝家を建てた。

｛子供が／*電車の振動が｝石を並べた。

b. ‘-as-/-os-’ : 意味述語 CAUSE を導入し、使役化する。

変化対象はそれ自体では変化する可能性を持っており、使役主は変化を補助ないし促進する働きを持つ。

出来事（event）が主語になることもできる。

[$_{EVENT}$　*x*　ACT]　CAUSE　[$_{EVENT}$　…]

｛彼は／雨が｝傘を濡らした。

｛子供が／日照りが｝花を枯らした。

以上見てきたように、特定の接辞を持つ日本語では、他動詞から自動詞、自動詞から他動詞という双方向のヴォイス転換が可能である。

2.4　まとめ

影山（1996:188-189）は「英語には反使役化はあるが、脱使役化は起こらない。これは、英語の自動詞化が形のないゼロ形態によって行われていることに起因する」とし、「ゼロ形態は、せいぜい反使役化の力しか持てない」と述べている。

しかし、中国語の自他交替現象を考えると、脱使役化が起こるかどうかは必ずしも自他を区別する接辞の有無といった形態的な要因のみによるものではない。中国語は動詞に自他区別する形態がない点では、英語と同様である。それにもかかわらず、動詞が形態を変えずに脱使役化を起こす例は少なくない。

第三章では、『日本語基本動詞用法辞典』（大修館書店出版）および、《汉语动词-结果补语搭配词典》（1987，北京语言学院出版社）に収録されている動詞や例文を言語資料として使用し、日本語の自他交替動詞と対応する中国語の動詞リスト、日本語

の自動詞に対応する中国語複合動詞ペアリストと他動詞に対応する中国語複合動詞ペアリスト、他動詞用法の結果複合動詞ペアリストと自動詞用法の結果複合動詞ペアリストを作成して、中国語は反使役化と脱使役化が起こるかどうか、また、「日本語の「反使役化」と「脱使役化」と、対応する中国語の「反使役化」と「脱使役化」を比較してそれぞれの特徴を考察していくことにする。

第 3 章　日本語動詞と中国語の対応

本章では、日本語と中国語における反使役化と脱使役化について、それぞれに語彙的対応、複合語、構文による対応を検討する。3.1 節では日本語の「反使役化」に対応する中国語の語彙的操作を、3.2 節では複合動詞による対応を、3.3 節では日本語と中国語における反使役化と脱使役化の構文を考察する。3.4 節はまとめである。

３．１　語彙的対応

このセクションでは中国語の単音節動詞の使役交替を見るが、その数は非常に少ない。これは中国語では単音節動詞が単独で現れることがあまりなく、複合語の一部として用いられることが多いからである。また、自動詞化も「変化対象そのものの内在的性質により、自発的に状態変化を引き起こす」という反使役化に限られている。

(1)　‘开 kāi’（開ける／開く）／‘关 guān’（閉める／閉まる）

a.　我　{开 / 关}　门.
wǒ　{kāi/guān}　mén
I　{open/close}　door
「私はドアを｛開けた/閉めた｝。」

b.　门　{开 / 关}　了.
mén　{kāi/guān}　le
door　{open/close}　PERF
「ドアが｛開いた/閉まった｝。」

(2)　a.　我　把　酒　洒　了.
Wǒ　bǎ　jiǔ　sǎ　le.
I　ACC　wine　spill PERF
「私は酒をこぼした。」

b.　酒　洒　了.

Jiǔ　sǎ　le

wine　spill　PERF

「酒がこぼれた。」

(3)　a.　我　止　了　血.

Wǒ　zhǐ　le　xiě

I　stanch　PERF　blood

「私は血を止めた。」

b.　血　止　了.

Xiě　zhǐ　le

blood　stanch PERF

「血が止まった。」

さて、つぎに挙げるのは極めて稀であるが、自・他動詞の区別が音声上の相違によって表わされる、中国語動詞の対である。

(4)　‘转’zhuǎn（三声）「回す」／zhuàn（四声）「回る」

a.　他　把　陀螺　转　了　起来.

Tā　bǎ　tuóluó　zhuǎn　le　qǐlái

he　ACC　top　spin　PERF　start

「彼はコマを回した。」

b.　陀螺　转　了　起来.

Tuóluó　zhuàn　le　qǐlái

top　spin　PERF start

「コマが回り始めた。」

(5)‘折’zhé「折る」／shé「折れる」

a.　他　在　折　树枝.

tā　zài　zhé　shū-zhī

he　PROG　snap　branch

「彼は枝を折っている。」

b.　树枝　折　了.

shū-zhī　shé　le

branch　fracture　PERF

「枝が折れた。」

初めに述べたとおり、中国語では単音節動詞を単独で現れることがあまりなく、複合語の一部として用いられることが多い。また、単独の動詞に見られる自他交替は日本語の反使役化に、複合語は脱使役化に対応する。

以下では、日本語の反使役化と中国語の単音節動詞との対応を見る。

3.1.1　ゼロ形態素

日本語には、ゼロ形態素による自他交替がある。この場合、自動詞と他動詞は同形である。ただし、和語には非常に少なく、対応する中国語動詞があるのは(1)に対する(6)しか見つからなかった。

(6)　a. ドアが　開いた／閉じた。

b. 私は　ドアを　開いた／閉じた。

(7)　a. 朝顔が　つるを　巻く。

b. 朝顔のつるが　巻く。

3.1.2 日本語の-e-による反使役化

「切れる（kir-e-ru）」と「切る（kir-ø-(r)u）」、「折れる（or-e-ru）」と「折る（or-ø-(r)u）」のような、‘-e-/-ø-’の自他対応に対応する中国語は、多くの場合は、単音節動詞の後に「好 hǎo」「断 duàn」など「終点、時間量、距離、動作の量、状態、結果」等の「限界点」を表す「補語」をつけるという形式で、詳しくは 3.2 節で扱う。中国語の単音

節動詞に対応する例は、ここでも少ない。

例(8)における語形成をみると、日本語では、自動詞化接辞‘-e-’により自動詞が派生する。一方、接辞のゼロの中国語では、非対格動詞‘断 duàn’と他動詞の‘剪 jiǎn（はさみで切る）’‘切 qiē（包丁などで切る）’などは独立した語であり、派生関係はない。

(8) a. 绳子 断 了.
shéng-zi duàn le
string break PERF.
「ひもが切れた。」

b. 他 剪 了 绳子
tā jiǎn le shéng -zi
he cut PERF string
「彼がひもを切った。」

影山（1996:190）に従えば、‘-e-’は概念構造において使役主と変化対象と同定する働きを持つものと見なすことができる。言い換えれば、内項と外項が同一指示になることにより、非対格動詞となるのである。

これに対して中国語では、英語と同様にそのような接辞が存在しない。特定の接辞によって、裏打ちされていない中国語や英語の反使役化にとっては、使役主と変化対象の同定は意味的・認知的な考慮によって決められる（影山 1996:193）。

たとえば、英語の *cut* や中国語の‘砍 kǎn’は道具を用いた事象を表しており、道具を使う動作主が前提とされている以上、概念構造において使役主と変化対象と同定することができず、反使役化は起こらない。

また作成動詞も、中国語と英語では自動化が不可能である。

(9) a. 彼女はケーキを焼いた。 → ケーキが焼けた。

b. She baked a cake. → *A cake baked.

c. 她 烤 了 一个 蛋糕. → *蛋糕 烤 了.
Tā kǎo le yígè dàngāo Dàngāo kǎo le
she bake PERF a cake cake bake PERF

なお次節で見るように、中国語では動詞の直後に完了を表す結果補語‘好 h□o’を結合させると、脱使役化が生じる。

(10) 蛋糕　　烤好　　了.
Dàngāo　kǎo-hǎo　le
cake　　baked　　PERF

3.1.3　反使役化の概念構造

ここでは、日本語の「切る／切れる」を例に分析を試みる。

(11)

	自動詞　-e-	他動詞
日本語	切れる kir-e-ru	切る kir-ø-(r)u
中国語	断 duàn	剪 jiǎn / 切 qiē

日本語の「切る／切れる」は次のように表される。

(12) a.　*x*　CONTROL　[*y*　BECOME　[*y*　BE　AT-　*z*]]
-ø-　　kir-

b.　*x*　CONTROL　[*y*　BECOME　[*y*　BE　AT-　*z*]]　(*x* = *y*)
-e-　　kir-

対応する中国語では自動詞には‘断 duàn’、他動詞には‘剪 ji□n（はさみで切る）／切 qiē（包丁などで切る）’などが用いられる。

(13) a.　*x*　CONTROL　[*y*　BECOME　[*y*　BE　AT- *z*]]　(*x* = *y*)
断 duàn

b.　绳子　　断　了

shéngzi duàn le

rope cut PERF 「ひもが切れた」

(14) a. [*x* ACT ON *y*] CAUSE [*y* BECOME [*y* BE AT-*Z*]]

剪 jiǎn / 切 qiē ∅

a. 张三 剪 了 头发

Zhāngsān jiǎn le tóufà

Zhang San cut PERF hair 「張三は髪を切った」

b. 我 切 了 两个 西瓜。

Wǒ qiē le liǎnggè xīgua

I cut PERF two watermelon 「私はスイカを二つ切った」

3.1.4 まとめ

本節では、日本語の自他交替のうち、中国語で単音節動詞に対応する例を考察した。その結果をまとめると次の通りである。

１．日本語の自他交替動詞に対応する中国語の単音節動詞は非常に少ない。これはそもそも中国語では単音節動詞を単独で現れることがあまりなく、複合語の一部として用いられることが多いからである。

２．自動詞化も、「変化対象そのものの内在的性質により、自発的に状態変化を引き起こす」という反使役化に限られる。これは反使役化に相当する語形成が中国語には存在しないことが原因である。

英語には脱使役化が起こらない。影山はこれは英語の自動詞化が形のないゼロ形態によって行われていることに起因するとしている。ゼロ接辞は、せいぜい反使役化の力しかもてないという影山の仮説（影山 1996:188-189）は、中国語にも当てはまると言えよう。

3.2　複合動詞における反使役化と脱使役化

このセクションでは、日本語動詞の自他交替が中国語の複合動詞に相当する場合を考察する。3.2.1 節では中国語の複合動詞を概観する。3.2.2 節と 3.2.3 節では自他交替動詞に対応することが最も多い結果複合動詞について詳しく検討する。3.3.4 節は中国語の脱使役化に課せられた制約について述べる。3.3.5 節はまとめである。

3.2.1　中国語の複合動詞

中国語の複合動詞は、その内部構造から、以下の五つに分類される。

(15)　a.「他動詞＋目的語」型（「述宾式」、Predicate-Object Type）:
　　结婚（jié-hūn，結婚する）
　　充电（chōng-diàn，充電する）

b.　「述語＋結果補語」型（「述補式」、Predicate-Complement Type）:
　　哭湿（kū-shī，泣いて｛ーをぬらす/—が濡れる｝）
　　唱哑（chàng-yǎ，歌いすぎて｛声をからす/声がかれる｝）

c.　「修飾語＋述語」型（「偏正式」、Modifier-Head Type）:
　　迟到（chí-dào，遅刻する）
　　合唱（hé-chàng，合唱する）

d.　「主語＋述語」型（「主谓式」、Subject-Predicate Type）:
　　地震（dì-zhèn，地震）
　　头疼（tóu-téng，頭が痛い）

e.　「等位構造型」（「並列式」、Coordinative Type）:
　　发生（fā-shēng，発生する）
　　充实（chōng-shí，充実する/充実させる）

『日本語基本動詞用法辞典』および、《汉语动词—结果补语搭配词典》により抽出した 322 個の自他交替動詞のペアリストでは、(16)のような分布を見せる。

(16) 日本語自動詞に対応する複合動詞　115 例

a. 「他動詞＋目的語」型（述宾式）　10 例　8.7%

孩子　终于　**脱险**　了.

zìjǐ　zhōngyú　táoxiǎn　le.

child　finally　escape-danger　PERF

「子供はついに助かった」

b. 「述語＋結果補語」型（述補式）　59 例　51.3%

树叶　**落下**　了.

shùyè　luò-xià　le.

leaves　fall-down　PERF

「葉が落ちた」

c. 「修飾語＋述語」型（偏正式）　7 例　6.1%

这本　书　**畅销**.

zhè-běn　shū　chàngxiāo.

this　book　well-sell

「この本はよく売れる」

d. 「主語＋述語」型（主谓式）　0 例　0%

e. 「等位構造」型（並列式）　39 例　33.9%

好　天气　**持续**　着.

hǎo　tiānqì　chíxù　zhe

fine weather　last　PROG

「晴れが続いている」

(17) 日本語他動詞に対応する複合動詞　77 例

a. 「他動詞＋目的語」型（述宾式）　0 例　0%

b. 「述語＋結果補語」型（述補式）　42 例　54.5%

他　**收齐**　了　资料

tā　shōuqí　le　zīliào

he collect-complete PERF material

「彼は資料を集めた」

c. 「修飾語＋述語」型（偏正式） 6 例 7.8%

那次 失败 **粉碎** 了 他的 意志.

nàcì shībài fěnsuì le tā-de yìzhì

that failure crush PERF his spirit

「その事件は彼の意志をうち砕いた」

d. 「主語＋述語」型（主谓式） 0 例 0%

e. 等位構造型（並列式） 29 例 37.7%

他 **掩盖** 过失.

tā yǎngài guòshī

he hide mistake

「彼は過失を隠す」

以上の五つの複合動詞のタイプのうち、タイプ a の「他動詞＋目的語」型は自動詞用法しかない。望月（2004：237）によれば、このタイプの複合動詞は完全に語彙化されておらず、VO の統語構造が反映された動詞句で、すでに目的語をもつ動詞句にさらに目的語をつけることができないため、他動詞用法がない。類例に‘毕业 bìyè（卒業する）’‘散会 sàn-huì（散会する）’‘停车 tíng-chē（停車する）’‘休学 xīu-xué（休学する）’‘辞职 cí-zhí（辞職する）’などがある。

(18) a. 彼女はお花屋さんを開店した。

b. 她 {*开店/开} 了 一家 花店.

tā {kāi-diàn/kāi} le yi-jiā huā-diàn

she open PERF a flower shop

(19) a. お花屋さんが開店した。

b. 有 一家 花店 开店 了.

yǒu yi-jiā huā-diàn kāi-diàn le

a certain　flower shop　start　　PERF

望月（2004：237）

タイプ b の「述語＋結果補語」型は使役起動交替を引き起こすことができる。また、もっとも生産性が高く、収集したデータの中では約 3 割を占めて最も多い。

タイプ c の「修飾語＋述語」型とタイプ d の「主語＋述語」型は自動詞用法しかない。

タイプ e の等位構造型（「並列式」）は語彙化されているが、使役起動交替が引き起こす。

以下、日本語の自他交替ともっともよく対応する「述語＋結果補語」型複合動詞を中心に検討していくことにしたい。

3.2.2　日本語の「反使役化」と「脱使役化」に対応する中国語の語彙的・統語的操作

まず、「反使役化」と「脱使役化」について、もう一度確認しておこう。

(20) a.　反使役化（anticausativization）：対象の変化は対象自身の内在的な性質による。使役主を変化対象と「同定」（identification）することによる自動詞化。

x　CONTROL　[y　BECOME　[y　BE　AT-z]]]

→　$x = y$　CONTROL　[y　BECOME　[y　BE　AT-z]]]

例：割る/割れる、切る/切れる、離す/離れる、破る/破れる

b.　脱使役化（decausativization）：対象の変化は外在的な要因によるが、使役主を意味構造で「抑制」（suppress）し、統語構造に投射しないことによる自動詞化。

x　CONTROL　[y　BECOME　[y　BE　AT -z]]

↓

Ø

例：決める/決まる、集める/集まる、掛ける/掛かる、植える/植わる

中国語の反使役化は使役化と対立する操作である。ここでいう使役化とは、望月

（2004 : 237）の［Action + Resultative State］というスキーマによって構成された複合動詞に相当する。以下では、(i) Action が軽動詞で表される場合、(ii) Resultative State が完了補語で表される場合、(iii) Action と Resultative State がともに内容を持つ語で表される場合に分けて見ていくことにする。

まず Action を抽象的に表す軽動詞には‘打 dǎ’や‘弄 nòng’があり、このスキーマに適合する複合動詞を形成するうえで、生産性が高い。たとえば、‘坏 huài（壊れる）’は現代中国語には自動詞用法しかなく、「する」に相当する軽動詞‘弄 nòng’と連結して‘弄坏 nòng-huài’とすることにより、他動詞として機能する。このほかにも、‘弄脏 nòng-zāng（汚す）’、‘弄断 nòng-duàn（断つ）’、‘弄错 nòng-cuò（間違う）’、‘弄糟 nòng-zāo（台無しにする）’など、後項に形容詞または自動詞をともなって、他動詞を生産的に作ることができる。また、「ある状態にする」という使役化のみならず、‘弄哭 nòng-kū（泣かせる）’のように非能格動詞を伴う使役化も可能である。

(21) a. 计算机 坏 了。
jì-suàn-jī huài le
computer break PERF
「パソコンが壊れた。」

b. 宝宝 {*坏/弄坏} 了 计算机。
bǎobǎo { huài/nòng-huài} le jì-suàn-jī
baby break/do-break PERF computer
「赤ちゃんがパソコンを壊した。」

日本語の反使役化動詞「割れる」とあわせて語彙概念構造で表示すれば、次のようになる。

(22) a. x <u>CONTROL</u> [y BECOME [y BE AT-<u>z</u>]] ($x = y$)
-e- war-
Ø 碎 suì
玻璃 碎 了
bōlí suì le

glass break PERF

「ガラスが割れた」

b. *x* CONTROL [*y* BECOME [*y* BE AT-*z*]]

-Ø- war-

打 dǎ 碎 suì

宝宝 打碎 了 玻璃

Bǎobao dǎ-suì le bōlí

baby break PERF glass

「赤ちゃんがガラスを割った」

なお、「深まる」など形容詞と語幹を同じくする自動詞は、対応する中国語の自動詞はいずれも、‘变 biàn’と共起して、‘变深 biàn-shēn（深まる）’‘变热 biàn-rè（温まる）’などとなる。一方、これの他動詞である「深める」などに対応する中国語他動詞は、いずれも‘加 jiā’と共起して‘加深 jiā-shēn’‘加热 jiā-rè（温める）’などの形で表す。この場合、に相当するのが‘变 biàn’‘加 jiā’であると考えられる。

第二のタイプは、単音節動詞の後に‘好 hǎo’‘满 mǎn’‘光 guāng’など「終点、時間量、距離、動作の量、状態、結果」等の「限界点」を表す「補語」をつけて脱使役化を表す動詞である（望月 2004：235）。

(23) a. 我们 种 了 五棵 树.

wǒmen zhòng le wǔ-kē shù

we plant PERF five tree

「私達は木を五本植えた」

b. 树 种好 以后 我们 走 吧.

shù zhòng-hǎo yǐhòu wǒmen zǒu ba

tree planted after we go MODAL

「木が植わったら行こう。」

(24) a. 妈妈 在 书包 里 塞 了 点心.

māmā zài shūbāo lǐ sāi le diǎnxīn

mum PERP satchel into package PERF cake

「母が鞄にお菓子を詰め込んだ」

b. 书包 塞满 了.

shūbāo sāi -mǎn le

Satchel packaged PERF

「鞄に一杯詰まった」

(25) a. 宝宝 喝 了 很多 牛奶.

Bǎobǎo hē le hěnduō níu-nǎi

baby drink PERF much milk

「赤ちゃんはミルクをたくさん飲んだ」

b. 牛奶 喝光 了.

níu-nǎi hēguāng le.

milk drank PERF

「ミルクが飲み終わった」

完了を表す結果補語が動作主を抑制するということは、他動詞の行為（action）から結果状態に重点が移ったと言うことができる（望月 2004 など）。言い換えれば、使役が背景化されると同時に、結果状態が前景化されたのである。

(26) *x* CONTROL [*y* BECOME [*y* BE AT-*z*]]

↓

x CONTROL [*y* BECOME [*y* BE AT-*z*]]

↓ ↓

行為者の背景化 結果状態の前景化

（望月 2004:145、申 2005:248-249、中島 2007:56-60）

このような脱使役化は、完了だけではなく、結果述語を伴う動詞連結形に広く見られる現象である。これが第三のタイプで、[Action + Resultative State] というスキーマにおいて、Action と Resultative State をそれぞれ語彙的に明示したものと考えることがで

きる。また、他動詞をさらに受動化することも可能である。

(27) *x* CONTROL [*y* BECOME [*y* BE AT-*z*]]

剪 jiǎn / 切 qiē　　断 duàn

a. 张三　把　绳子　剪断　了。
Zhāngsān　bǎ　shéngzi　jiǎn-duàn　le
Zhang San　ACC　cord　cut-break　PERF
「張三は紐を切った。」

b. 绳子　被　剪断　了。
shéngzi　bèi　jiǎn-duàn　le
cord　PASSIVE　cut-break　PERF
「紐が切られた」

つぎに‘哭湿 kū-shī’の脱使役化を見ていこう。

(28) a. 她　哭湿　了　手帕.
tā　kū-shī　le　shǒupà
she　cry-wet　PERF　handkerchief
「彼女はハンカチを泣き濡らした。」

b. 手帕　哭湿　了.
shǒupà　kū-shī　le
handkerchief　cry-wet　PERF
「ハンカチは涙で濡れた。」

申（2004:250）

‘哭湿’の語形成は(29)のようになる。

(29)　a.　哭：項構造　　[Agent]

語彙概念構造　[x　ACT]

哭 kū

b. 湿：項構造　　[Theme]

語彙概念構造　[y　BE　AT-z]

湿 shī

c.　哭湿：項構造　　[Agent,　Theme]

語彙概念構造 [x　ACT]　CAUSE　[y　BECOME　[y　BE　AT-z]]

↓　哭 kū　　湿 shī

∅（脱使役化）

前項の‘哭’と後項の‘湿’二つの述語が組み合わせてできた‘哭湿’の項構造を考えると、「彼女が泣く行為によりハンカチが濡れた」という意味から、‘哭湿’は英語の結果構文と同様に、原因事象と結果事象の合成と見なされる（望月 2004:250）。ここで、結果事象に視点を合わせ、原因事象が背景化されると、脱使役化が起こり、(28b)が派生される。

一方、日本語では、‘哭湿’のような「非能格動詞＋非対格動詞」という組み合わせの複合動詞は不可能である。それは、影山（1993）提案した「他動性調和の原則」に反するからである。

さて、このように中国語の複合動詞では脱使役化は非常に生産的なのであるが、反使役化は必ずしもそうではない。

(30) 门　自动　{打开/*推开}　了.

mén　zìdòng　{dǎ-kāi/tuī-kāi}　le.

door　automatically {hit-open/push-open}　PERF

‘The door opened automatically.’

Lit. ‘The door was automatically pushed open.’　（Cheng & Huang 1994 : 212）

上の例では、軽動詞‘打 dǎ’には意味がほとんどないのに対し、‘推 tuī’には「押す」という意味がある。後者の場合、使役主を変化対象と同定することができないた

め、反使役化は不可能なのである。

同様に、他動詞＋結果補語の複合動詞では、たとえば中国語で「枝が折れた」と言うとき、動詞には能格動詞‘断 duàn’の他に、複合動詞の‘吹断 chuī-duàn’‘折断 snap-duàn’を反使役化することも不可能ではない。これに対して、‘砍断 kǎn-duàn’を反使役化した文の容認度は非常に低い。

(31) 树枝　{断/吹断/?折断/*砍断}　了。
Shù-zhī {duàn/chuī-duàn/? -duàn/kǎn-duàn} le.
branch {break/blow-break/snap-break/chop-break} PERF
「枝が折れた。」

‘折 zhé (snap)’と‘砍 kǎn (chop)’の違いは Hale and Keyser (1993) や Levin and Rappaport Hovav (1995) などで扱われている現象とよく似ている。彼らによれば、道具を使うなどの様態の概念があると、自動詞化ができなくなるという。

(32) a. The kids splashed/smeared mud on the wall.
b. The mud splashed/*smeared on the wall.

この点から(32)を見ると、単純に「折る」という意味の‘折 zhé’が「(なたやおので) たたき切る」という様態の意味を伴う‘砍 kǎn’に比べて自動詞化しやすいのは、英語と共通の現象であると考えられる。

道具を使うなどの様態の概念が動作主性（Agentivity）と関わるとすると、‘吹断 chuī-duàn’の脱使役化の容認度が高い理由も説明がつく。この動詞は風などの自然現象を主語に取り得るからである。すなわち、主語の動作主性が高ければ高いほど反使役化の容認度が下がるのである。

(33) 主語の動作主性	action	result	反使役化の容認度

高い ↑	砍 kǎn		*
	折 zhé	断 duàn	?
低い ↓	吹 chuī		OK

3.2.3　中国語の結果複合動詞の構造

中国語の結果複合動詞は、二つの述語が組み合わさって、以下のような「原因または先行事象―結果事象」表す（申 2007：2）。

(34)結果複合動詞の事象構造及び述語

前項述語（V1）　＋　後項述語（V2）

原因または先行事象　　結果事象

｛非能格動詞／非対格動詞／他動詞｝　｛非対格動詞／形容詞｝

前項述語（以下、V1 と表す）は非能格動詞、非対格動詞及び他動詞と、すべての種類の述語が現れることが可能である。一方、後項述語（以下 V2 と表す）の機能は、結果状態を表すために、ほとんどの場合、状態変化を表す非対格動詞／形容詞が担う。

結果複合動詞は前項動詞が自動詞か他動詞か、結果述語の叙述対象が外項か内項かで四つのパターンに分類することができる。

(35)a.　非対格自動詞＋非対格動詞　**内項叙述型**

醉倒 zuì-dǎo（｛酔って倒れる／酔わせて倒させる｝）

累坏 lèi-huài（｛疲れて体が壊れる／疲れさせて体を壊させる｝）

eg.　我　**累坏**了　他.　「私は彼を体を壊すほど疲れさせた」

他　**累坏**了.　「彼は疲れて体を壊した」

b.　非能格自動詞＋｛非対格動詞／形容詞｝　**外項叙述型**

唱哑 chàng-yǎ（歌いすぎて声がかれる）

哭累 kū-lèi（泣き疲れる）

eg.　她　哭累　了.　「彼女は泣き疲れた」

c.　他動詞＋非対格動詞　**内項叙述型**

推开 tuī-kāi（押し開ける）

打破 dǎ-pò（力を加えて壊す／力が加わって壊れる）

eg.　他　**推开**了窗户.　「彼は窓を押し開けた」

　　窗户　**推开**了.　　「窓が押し開けられた」

d.　他動詞＋状態性述語　**外項叙述型**

听懂 tīng-dǒng（聴いて理解する）

学会 xué-huì（学んで、何かができるようになる）

eg.　我　**学会**了　日语.「日本語を身につけた」

（申 2007：2 に、例文を追加）

3.2.4 節で詳しく述べるが、(35a,c)では脱使役化が可能であるが、(35d)は不可能である。また、日本語では、‘哭湿’のような「非能格動詞＋非対格動詞」という組み合わせの複合動詞はできない。影山（1993）のいう「他動性調和の原則」に反するからである。

さて、ここで注意すべきは、中国語においても原則として結果の叙述対象は内項である事実である。

一般に日本語や英語では結果述語の叙述対象は内項に限られる。つまり(36)のような他動詞の目的語か、(37)のように能格動詞の主語でなければならず、他動詞主語や非能格主語を叙述対象とする文は排除される。Levin and Rappaport Hovav (1995:34) であげられている「結果述語が叙述する対象は、文の直接目的語ではなければならない」という「直接目的語の制約」（Direct Object Restriction）は中国語の結果複合動詞においても、直接目的語についての結果述語が最も多いのはなぜかという現象に、一定の説明力をもつものといえよう。

(36)　a. John froze the jelly solid.

b. 太郎はゼリーをカチカチに凍らせた。

(37)　a.　The jelly froze solid.

b. ゼリーはカチカチに凍った。

(38) a. *He cried tired.

b. *彼はくたくたに泣いた。

ではつぎに、複合動詞の概念構造を見ていくことにしよう。内項叙述型の複合動詞を申（2007）の枠組みで示せば下のようになる。

(39) 推开 tuī-kāi（押し開ける）

a. 推：項構造 [Agent, Theme]

語彙概念構造 [x ACT ON *y*]

b. 开：項構造 [Theme]

語彙概念構造 [*y* BECOME [*y* BE AT-*z*]]

c. 推开：項構造 [Agent, Theme]

推 开

<Ag, Th1> <Th2>

同定

語彙概念構造

[x ACT ON y] CAUSE [*y* BECOME [*y* BE AT-*z*]]

推 开

(40) 摔倒 shuāi-dǎo「転んで倒れる」

a. 摔：項構造 [Theme]

語彙概念構造 [*y* BECOME [*y* BE AT-*z*]]

b. 倒：項構造 [Theme]

語彙概念構造 [*y* BECOME [*y* BE AT-*z*]]

c. 摔倒：項構造 [Theme]

摔 倒

<Th1>　　<Th2>

同定

語彙概念構造

[*y* BECOME [*y* BE AT-*z*]] CAUSE [*y* BECOME [*y* BE AT-*z*]]

摔　　倒

申（2007：14）は(41)のような、非対格動詞と非対格動詞の組み合わせ、即ち、原因事象が非対格事象である例は、他にも‘病倒 bìng-dǎo’「病気になって倒れる」、‘冻僵 dòng-jiāng’「凍えて体が硬くなる」、‘累病 lèi-bìng’「疲れて病気になる」、‘病瘦 bìng-shòu’「病気になって痩せる」など少なくないことを指摘している。

このような複合動詞に対して、Cheng and Huang (1994:199)は V1 が非対格動詞である場合は、Causer 項を外項に付加することによって、形態変化なく使役化が起こるとして、以下のような一般化を提示している。

(41)　$[_{RV}\ V1_{Non\text{-}active}\ [\ V2_{State/Change\text{-}of\text{-}State}\ ]]$

a. <Theme / Experiencer / Causee >　　(ergative)

↓ Causer 項を付加することによって使役化

b. <Causer, Theme / Experiencer / Causee>　(causative)

例文(43)は(44)のような語彙概念構造となる。

(42) a.　张三　醉倒了.

Zhāngsān zuì-dǎo-le

Zhangsan drunk-fall-PERF

‘Zhangsan got drunk by drinking (wine).’

b.　那杯　酒　醉倒了　张三.　Syntactic causation

nà-bēi jiǔ zuì-dǎo-le Zhāngsān.

that-CLwine drunk-fall-ASP Zhangsan

'That class of wine got Zhangsan drunk (from drinking it).'

（Cheng & Huang 1994：200-201）

(43) [Causer CAUSE$_1$ [[BECOME [y BE AT-z_1]] CAUSE $_2$ [BECOME [y BE AT-z_2]]]

那杯酒 张三 醉 张三 倒

（申 2007：16）

ただし申（2007：16）は、こうした使役化は、意味的に整合する使役主（Causer）が考えられうるような状況にのみ可能で、摔倒 shuāi-dǎo「転んで倒れる」、'病倒 bìng-dao'「病気になって倒れる」、'病瘦 bìng-shòu'「病気になって痩せる」などは、使役化が起こるような状況は考えにくく、語用論的な要因にかなり左右されると述べている。

つぎに結果述語が外項を叙述する複合動詞に移ろう。一般に結果述語は内項のみを叙述し、英語などの非能格動詞に基づく結構構文では、主語と同一指示の再帰代名詞を補わなければならない。

(44) He cried *(himself) tired.

興味深いことに、(44)に相当する中国では再帰代名詞が任意に現れる。すなわち、(35b)型の結果複合動詞において、音形のない再帰代名詞を仮定することができるのではないかと考えられるのである。

(45) a. 她 哭累 了 （自己）.

Tā kū-lèi le （zìjǐ）

she cry-tired PERF herself

「彼女は泣き疲れた」

b. 他 累坏 了 （自己）.

Tā　lèi-huài　le　（zìjǐ）

she　cry-tired　PERF　herself

「彼は疲れて体をこわした」

あるいは、文脈により使役主（Causer）を想定することが可能であれば、脱使役化であるとも考えられる。

(46) a.　他　写累了.

tā　xiě-lèi-le.

he　write-tired-PERF

'He wrote himself tired.'

b.　那本　書　写累了　李四.

nà-běn　shū　xiě-lèi-le　Lǐsì

that-CL　book　write-tired-PERF　Lisi

' That book got Lisi to write himself tired.'

（Cheng & Huang 1994：190）

では次のような例はどうであろうか。下の(47)の場合、目的語に相当する語（'饭 fàn'、'马 mǎ'）がすでに存在するため、再帰代名詞 '自己 zìjǐ' を付加することができない。

(47) a.　他　吃饱了　饭了.

tā　chī-bǎo-le　fàn-le.

he　eat-full-PERF　rice-PERF

「彼はご飯を食べてお腹いっぱいになった」

b.　他　骑累了　马了

tā　qí-lèi-le　mǎ-le.

he　ride-tired-PERF　horse-PERF

「彼は馬に乗って疲れた」／「彼は馬に乗って馬を疲れさせた」

（Cheng & Huang 1994：204）

注目すべきは(47b)は多義で、「彼は馬に乗って疲れた」という外項叙述の意味の他に、「彼は馬に乗って馬を疲れさせた」という内項叙述の意味もあるという点である。

Cheng & Huang（1994：204）、Cheng（1997:186-188）及び Huang（2006:6）は主語指向型‘骑累 qí-lèi’、即ち「張三は馬に乗り疲れた」という解釈は、‘马 mǎ’が「非指示的」(non-referential) である場合にのみ可能で、以下に示す (48) のように、「あの馬」「私の馬」等の指示詞をつけて、「指示的」(referential)な名詞句にすると、「乗り疲れる」という解釈はありえず、「馬に乗って、{あの／私の} 馬を疲れさせた」という、内項叙述の解釈しかないという。

(48) 张三　骑累了　{那匹 / 我的}　马.
Zhāngsān　qí-lèi-le　{nà-pī／wǒ de}　mǎ.
Zhangsan　ride-tired-PERF　{that-CL／my}　horse
='Zhangsan rode horse, and that／my horse tired.'
≠ 'Zhangsan rode that／my horse, and Zhangsan tired.'

この判断が正しいとするならば[1]、‘累 lèi（疲れている）’が‘马 mǎ’を叙述できないのは‘马 mǎ’が指示的ではないからである。しかし、‘马 mǎ’を叙述できないからと言って、外項を叙述できるシステムがなければ、(47)は非文になってしまう。Cheng & Huang（1994：206）や Huang（2006:12-19）などでは、Rosenbaum (1967)で提案されたコントロール理論に関わる一般的原則、"Minimal Distance Principle"（MDP）を応用し、以下のような結果叙述にかかわる一般原則が提案されている。

(49) The MDP on resultative predication:
In a resultative construction, the Result XP is predicated on the closest prominent argument.

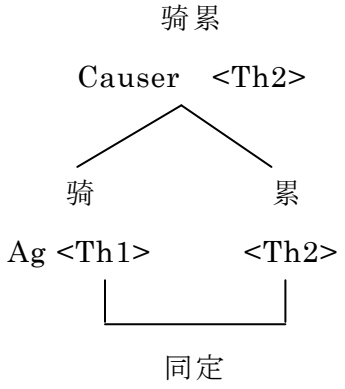
(49)が予測するのは、結果述語において、主語と目的語の両方が存在する場合、目的

[1] Li（1990：177-178）、湯（1992：134）、申（2006：8）では外項叙述解釈も可能であるとしている。ただし、外項叙述解釈を容認しない話者も多いことも事実である。

語がない場合、主語が最も近い頃となり、主語への結果述語となる、ということである。言い換えれば、目的語指向を優先するという原則である。

では‘骑累 qí-lèi’の多義性を語彙概念構造で表してみよう。(50) は内項叙述の、(51) は外項叙述の構造である。

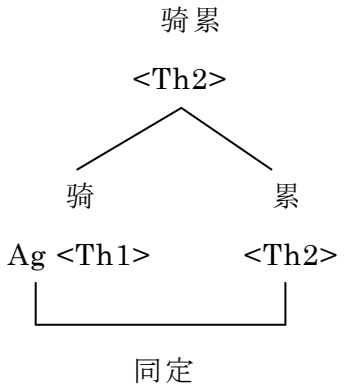
(50) a.



b. [*x* ACT ON *y*] CAUSE [BECOME [*y* BE AT-*z*]]

(申 2007:6)

(51) a.



b. [*x* ACT ON - horse] CAUSE [BECOME [*y* BE AT-*z*]]

(申 2007:7)

(50)では、‘骑累 qí-lèi’という複合動詞の主語は、必ずしも「馬を疲れさせる」こと

を意図して「馬に乗った」わけではないから、意図性をもった動作主ではなく、「馬が疲れる」という結果事象を引き起こす原因者（Causer）という意味役割をもつと想定される。即ち、前項の活動動詞‘骑 qí（馬に乗る）’の主語に与えられた Agent という意味役割は引き継がれず、新しい意味役割が付与されることになる。

申（2007:6）は、もし、この中国語においても最も生産的な複合動詞のタイプが、項構造レベルで形成されると想定するならば、Causer という意味役割が、V1 にも V2 にも存在しないため、どこから付与されるのかうまく説明できないが、このタイプの複合動詞が、(50b)で表されるような因果関係を表す典型としての語彙概念構造の合成によって形成されると想定するならば、より妥当な説明が得られると主張している。

一方（51）の構造は、‘骑 qí’の目的語‘马 mǎ’が‘骑马 qí-mǎ（乗馬する）’という複合語の一部とみなされ、結果述語の主語にはなれないことを表している。

ただし、この分析を(35d)に見られる外項叙述タイプの他動詞結果構文には適用できない。しかし、この構文は特殊な例外であり、むしろ結果述語が内項を叙述することが原則であることを逆に証明しているように思われる。事実、このタイプの複合動詞は 4 例しか見あたらなかった。

(52) 我 穿惯 了 这种 鞋子.
Wǒ chuān-guàn le zhè-zhǒng xié-zi
I wear-broken-in PERF this-pair shoe
「このタイプの靴に履きなれた」

3.2.4 脱使役化における制約

前節では中国語の複合動詞の構造について詳しく見てきた。これらのうち、(35b)型（「非能格動詞＋結果述語」）はそもそも目的語が現れないので、脱使役化はあり得ないが、(35a,c)では可能である。

(35’) a. 非対格自動詞＋非対格動詞 **内項叙述型**

我 **累坏**了 他. 「私は彼を体を壊すほど疲れさせた」

他 **累坏**了. 「彼は疲れて体を壊した」

b. 非能格自動詞＋｛非対格動詞／形容詞｝ **外項叙述型**

她　哭累　了.　　「彼女は泣き疲れた」

c.　他動詞＋非対格動詞　**内項叙述型**

他　**推开**了窗户.　「彼は窓を押し開けた」

窗户　**推开**了.　　「窓が押し開けられた」

本節ではまず(35d)型で脱使役化ができないこと、さらに(35c)型でも必ずしも脱使役化が可能とは限らないことを見る。

3.2.4.1　内項制約

まず、次の例文を比較しよう。(53)は後項が目的語について叙述する「内項叙述型」であり、(54)は後項が主語について叙述する「外項叙述型」である。

(53) a.　我　<u>穿破</u>　了　这双　鞋子.

Wǒ chuān-pò le zhè-shuāng xié-zi

I wear-out PERF this-pair shoe

「この靴を履きつぶした」

b.　这双　鞋子　<u>穿破</u>　了.　脱使役化

zhè-shuāng xié-zi chuān-pò le

(54) a.　我　<u>穿惯</u>　了　这种　鞋子.

Wǒ chuān-guàn le zhè-zhǒng xié-zi

I wear-broken-in PERF this-pair shoe

「このタイプの靴に履きなれた」

b. *?　这种　鞋子　<u>穿惯</u>　了.

zhè-zhǒng xié-zi chuān-guàn le

「このタイプの靴が履きなれた。」

使役交替を起こすことができるのは、後項述語が目的語について叙述する「内項叙述型」であり、結果述語が外項を叙述対象としている時には、脱使役化（外項の抑制）が難しい[2]。

---

[2] (54b)で、‘这种 鞋子 zhè-zhǒng xié-zi’（このタイプの靴）のあとにコンマイントネーシ

3.2.4.2　所有関係制約

つぎに非能格自動詞＋結果補語の複合動詞についてみておこう。望月（2004:255）によれば、脱使役化後の主語は譲渡不可能な身体部位でなければならないという。

(55)　a.　I (locked myself in my room and) cried my eyes out.

(Allsop “Summer-blue Eyes”)

b.　我　哭肿　了　双眼.

Wǒ　kū-zhǒng　le　shuāngyǎn

I　cry-swollen　PERF　eyes

「私は両目を泣きはらした」

c.　我的　双眼　哭肿　了.

Wǒ-de　shuāngyǎn　kū-zhǒng　le

my　eyes　cry-swollen　PERF

(56)　a. The dog barked them awake.　(Levin & Rapparport Hovov 1995 :36)

b.　狗　吠醒　了　他们.

Gǒu　fèi-xǐng　le　tāmén

dog　bark-awake　PERF　them

c. *　他们　吠醒　了.

tāmén　fèi-xǐng　le

they　bark-awake　PERF

しかし、(28)のように「ハンカチ」が脱使役化によって主語となりうることから、脱使役化後の主語は譲渡可能であってもよいのではないかと考えられる。言い換えれば、主語と変化主体の間に何らかの所有関係が成り立てば脱使役化が可能になるのである。ただし、なぜ所有関係が成り立てば脱使役化が可能になるのかについては今後の課題

ョンをつけるか、主語‘我 wǒ’をつければ容認度は上昇するが、この場合は脱使役化ではなく、目的語を話題化した構文となる。

としたい。

3.2.5　まとめ

日本語の自他交替に対応する中国語複合動詞の操作には、反使役化による結果の前景化と脱使役化による動作主の背景化が見られた。また、中国語においては、結果状態や結果位置の存在が反使役化と脱使役化の認可条件になっていることから、完了相（telicity）が重要な役割を果たしていることが分かる。

ただし、反使役化は定義上、対象自身の内在的な性質による変化を表し、使役主と変化対象を同定することによる自動詞化であるため、[Action + Resultative State] というスキーマにおいては、Action が具体性を欠く軽動詞か動作主性の低い動詞に限られる。

これに対して脱使役化は非常に生産的なのであるが、結果述語が内項叙述型であること、主語と変化主体の間に何らかの所有関係が成り立つこと、という制約もある。

3.3　構文による日本語と中国語反使役化と脱使役化対応

これまでは、語彙レベルでの脱使役化を見てきたが、このセクションでは、中国語の使役化および脱使役化を引き起こす四つの構文をみていく。脱使役化の一つは「存現文」（presentative sentences）と呼ばれる構文で、英語の所格倒置（locative inversion）や日本語の「テアル」構文によく似ている。もう一つは位置変化を表す動詞に着点や起点を付加することによる脱使役化である。最後の手段は動詞の後ろに修飾副詞‘得 de’を連結することによる、結果構文である。

3.3.1　使役構文

日本語の自他交替動詞に対応する中国語で、収集した表現の 19%（33 例）を占めたのが、‘使 shǐ’（させる）を用いる使役構文である。

(57) a.　石 膏　　変 硬 了.

shí-gāo　biàn yìng　le

Gypsum　turn hard　PERF

「石こうが固まった」

b.　爸爸 使　石膏　凝固

bàbà shǐ　shí-gāo níng-gù

dad make gypsum solidified

「父は石こうを固める」

(58)　a.　柱子　斜　了.

Zhù-zi　xié　le

Pillar　lean-Asp

「柱が傾いた」

b.　他　使　柱子　倾斜.

Tā　shǐ　zhù-zi qīng-xié

He　make pillar　lean

「彼は柱を傾ける」

(59)　a.　她　很　烦恼

Tā　hěn　fán-nǎo

She MODIFY worried

「彼女は悩んでいる。」

b. 这件事　使　她　很　烦恼

zhèjiàn-shì　shǐ　tā　hěn fán-nǎo

this affair make her MODIFY worried

「このことは彼女を悩ます。」

3.3.2　存現文と処置文

「存現文」は場所を主語化することによる、外項の抑制と特徴づけることができる。英語の(61b)のような所格倒置に類似しているが、「着 zhe/了 le/满 mǎn」などのアスペクト標識または結果補語を伴い、「動作の結果、対象がある場所に存在するようになる」という結果相を表す。

(60) 墻上　　挂　　着　　一幅　　画

Qiángshàng　guà　zhe　yīfú　huà

wall-on　hang　PROG　one-CL　picture

「壁に絵が掛かっている」

(61)　a. A picture hangs on the wall.

b. On the wall hangs a picture.

これに対して処置文とは、動作や行為の対象を述語の前に導く前置詞‘把 bǎ’を用いる構文である。ここでは‘把 bǎ’が「V 在」と共起する場合とその脱使役化、および存現文を対比させつつ、日本語の自他交替との類似性を示したい。

(62) a.　S　把 O　V 在　PP_{LOC}　（処置文）

b.　O　V 在　PP_{LOC}　（脱使役化）

c.　PP_{LOC}　V 着/了/満　O　（存現文）

まず、(62)の順に例文を挙げる。

(63) a.　張三　把一幅画　挂在　墻上.

Zhāngsān　bǎ-yī-fú-huà　guà-zài　qiángshàng

Zhangsan　BA-one-CL-picture　hang-ASP　wall-on

「張三は一幅の絵を壁に掛けている」

b.　一幅画　挂在　墻上.

Yī-fú-huà　guà-zài　qiángshàng

one-CL-picture　hang-ASP　wall-on

「一幅の絵が壁に掛かっている」

c.　墻上　挂着　一幅画.

Qiángshàng　guà-zhe　yī-fú-huà

wall-on　hang-ASP　one-CL-picture

「壁に一幅の絵が掛かっている」

(64) a. 李四 把西装 挂在 衣架上.

Lisi bǎ-īzhuāng guà-zài yījià-shàng

Lisi BA-suit hang-ASP hanger-on

「李四はスーツをハンガーに掛ける。」

b. 西装 挂在 衣架上.

Xīzhuāng guà-zài yījià-shàng

suit hang-ASP hanger-on

「スーツがハンガーに掛かっている。」

c. 衣架上 挂着 西装

Yījià-shàng guà-zhe xīzhuāng

hanger-on hang-ASP suit

「ハンガーにスーツが掛かっている。」

(65) a. 李四 把白菜 泡在 坛子里.

Lǐsì bǎ-báicài pào-zài tánzi-lǐ

Lisi BA-cabbage pickle-ASP jar-in

「李四は白菜をつぼに漬けておく。」

b. 白菜 泡在 坛子里.

báicài pào-zài tánzi-lǐ

cabbage pickle-ASP jar-in

「白菜がつぼに漬かっている」

c. 坛子里 泡着 白菜

tánzi-lǐ pào-zhe báicài

jar-in pickle-ASP cabbage

「つぼに白菜が漬かっている」

(66) a. 張三 把很多书 摆在 书架上.

Zhāngsān bǎ-hěn-duō-shū bǎi-zài shūjiàshàng.

Zhangsan BA-very-many-book put-ASP shelf-on

「張三はたくさんの本を本棚に置いている」

b. 很多书 摆在 书架上.

Hěn-duō-shū bǎi-zài shūjiàshàng.

very-many-book put-ASP shelf-on

「本が本棚にたくさん置いている」

c. 书架上 摆着 很多书

Shūjiàshàng bǎi-zhe hěn-duō-shū

shelf-on put-ASP v very-many-book

「本棚に本がたくさん置いている」

上の例文で、脱使役化された文と存現文との違いは、情報構造にある。すなわち、‘墙上’「壁」、‘书架上’「本棚」はいずれも背景となる旧情報（地 ground）であり、後に現れる名詞が新情報（図 figure）と解釈されるのである。

(67) 从前 山上 住着 一对 老公公 和 老婆婆.

Cóngqián shān-shàng zhù-zhe yí-duì lǎogōnggōng hé lǎopópó

once mountain-on live-ASP one-couple grandpa and grandma

「昔々、山の上に、おじいさんとおばあさんが住んでいた。」

なお、日本語において、動作主を背景化する統語的操作に「テアル構文」がある。この構文は状態ないし位置の変化を含意する動詞に付いてその行為が完了し、結果が残存していることを表す。影山（2000:40）によれば、動作主（外項）を背景化すると同時に目的語（内項）を前景化するという機能を持つ構文である。

(68)庭に木犀が植えてある。

このことから、「テアル構文」は結果状態の持続を表す操作であることが分かる。「テアル構文」のアルと形態的に類似する「掛ける－掛かる」のような自他交替に参与する「-ar-」という接尾辞があるが、-ar-自動詞の動作主は意味的に理解されるだけで、

統語的には存在しないのに対して、「テアル構文」では外項が暗黙項（implicit argument）として存在しており、動作主指向の副詞や目的節で修飾することができる。

(69) a.　通行人がのぞきこまないために、まどには簾が掛けてある。

b.*通行人がのぞきこまないために、まどには簾が掛かっている。

（影山 2000:36）

影山によれば、「テアル構文」が目に見えない動作主を持っているというのはこれが統語的な構文であることに起因する。一方、-ar-による反使役化の場合は語彙部門で形成されるために、動作主を意味的に含意するだけで、統語構造に反映されてはいない。

3.3.3　「在 zài」構文

統語レベルで、脱使役化を引き起こすもう一つの構文が「在」構文である。この構文は(70)のように派生される。

(70) S　V　O　$PP_{GOAL/SOURCE}$　→　O　V 在　PP　（PP の位置は P による）

(71)　a. お菓子が鞄に詰まっている。

b. 点心　塞　在　书包　里.

diǎnxīn　sāi　zài　shūbāo lǐ

cake　package in　satchel to

(72)　a. 叔母さんの娘は日本に嫁いでいる。

b. 姑妈　的　女儿　嫁 在 日本.

gūmā　de　nǚ-ér　jià-zài rìběn

aunt　Gen daughter marry into Japan

(73) a.　晒した布が屋根から垂れ下がっている。

b. 漂白　了　的　布　从　屋檐　上　悬挂　下来.

piǎobái　le　de　bù　cóng　wūyán　shàng　xuánguà　xiàlái

bleach　PERF　DE　cloth　from　roof　on　hang　down

中国語の動詞「塞 sāi（詰める）」、「悬挂 guà（掛ける）」はいずれも動作主を主語にとる他動詞であるが、移動の着点・起点を表す方向補語を付加することによって、他動詞が形態を変えることなく、脱使役化を起こしている。

これは、英語の運動様態動詞（manner of motion verbs）に結果位置を表す PP が伴うと、移動を表す非対格動詞にシフトする現象に似ていると言えるかもしれない。

(74) a. They ran on the ground

b. They ran to the station.

(75) a. The mouse ran (through the maze).

b. *We ran the mouse.

c. We ran the mouse through the maze.

3.3.4 ‘得 de’による結果構文

最後に、‘得 de’を用いた結果構文を取り上げよう。動詞の後ろに修飾副詞‘得 de’を連結することにより、結果構文になるという手段は中国語の構文では、非常に広く使用されている。しかも、制約はほとんどない。またここで自他交替が可能になるが、このとき‘得 de’は省略できない。

(76) a.

他	把	杯子	摔得	粉碎。
Tā	bǎ	bēi-zi	shuai-de	fěn-suì
he	BA	cup	drop-DE	pieces

「彼はカップを落として壊した。」

b.

杯子	摔得	粉碎。
Bēi-zi	shuai-de	fěn-suì
cup	smash-DE	pieces

「カップは落ちて粉々に壊れた。」

(77) a.

入学	考试	把	我	累得	筋疲力尽。
Rùxué	kǎoshì	bǎ	wǒ	lèi-de	jīnpílìjìn
entrance	examination	BA	me	tired-DE	tired out

「入学試験で私はくたくたになった」

b.　我　累得　筋疲力尽。

Wǒ　lèi-de　jīnpílìjìn

I　tired-DE　tired out

「私はくたくたになった」

3.3.5 まとめ

以上、構文による日本語の自他交替に対応する中国語の操作を検討した。ここで取り上げた使役構文、処置文、存現文、‘得 de’による結果構文は中国語でいずれもよく使われる構文である。

また日本語にも、「テアル」構文が存在するが、これは脱使役化という点で、中国語の「存現文」と共通している。しかし、両者の詳しい比較は今後の課題としたい。

第 4 章　結論

本論文では日本語の自他交替に対応する中国語の操作に関して、(i) 単音節動詞による対応、(ii) 複合語による対応、(iii) 構文による対応に分けて考察を進めてきた。

とくに第 3 章では、日本語と中国語における反使役化と脱使役化操作全般について、比較しながら、中国語動詞の自他交替の特徴を考察し、仮説を提案した。いずれの場合にも反使役化による結果の前景化と脱使役化による動作主の背景化が見られた。この点はもっとも数の多い複合動詞においても確かめることができた。ただし、単音節動詞による対応では反使役化が、複合語および構文による対応では脱使役化が中心であった。以下、第 3 章の考察から得られた結果の一部を再掲する。

反使役化操作については、まず、日本語の自他交替動詞に対応する中国語の単音節動詞は非常に少ない。これはそもそも中国語では単音節動詞を単独で現れることがあまりなく、複合語の一部として用いられることが多いからである。また、自動詞化も、「変化対象そのものの内在的性質により、自発的に状態変化を引き起こす」という反使役化に限られる。これは反使役化に相当する語形成が中国語には存在しないことが原因である。ゼロ接辞は、せいぜい反使役化の力しかもてないという影山の仮説（影山 1996:188-189）は、中国語にも当てはまると言える。

中国語において反使役化に相当する複合動詞は、対応する他動詞の前項動詞が意味内容の薄い軽動詞の場合と、動作主性の低い動詞の場合である。日本語の反使役化動詞「割れる」とあわせて語彙概念構造で表示すれば、次のようになる。

(1)　a. x <u>CONTROL</u> [y BECOME [y BE AT-<u>z</u>]]　($x = y$)

-e-　　war-

Ø　　碎 suì

b. x <u>CONTROL</u> [y BECOME [y BE AT-<u>z</u>]]

-Ø-　　war-

打 dǎ　　碎 suì

つぎに、脱使役化操作であるが、中国語において、脱使役化に相当する形式は、語形成レベル・統語レベル両方において、非常に豊かである。

語彙操作：①単音節動詞の後に‘好 hǎo’‘满 mǎn’‘光 guāng’など「終点、時間量、距離、動作の量、状態、結果」等の「限界点」を表す「補語」が現れる場合

②動作動詞＋結果述語の組み合わせ

構文操作：① 存現文

（PP_{LOC}　V 着/了/满　O）

②「在」構文

（S　V　O　$PP_{GOAL/SOURCE}$　→　O　V 在　PP　（PP の位置は P による））

③‘得 de’を用いた結果構文

（S　把 O　V 得　RESULTATIVE　→　O　V 得　RESULTATIVE）

いずれも、次のように図式化することができる。

(2)

$$x \quad \text{CONTROL} \quad [\,y \quad \text{BECOME} \quad [\,y \quad \text{BE} \quad \text{AT-}z \quad]\,]$$

$$\downarrow$$

$$\underline{x} \quad \text{CONTROL} \quad [\,y \quad \text{BECOME} \quad [\,y \quad \text{BE} \quad \text{AT-}\underline{z} \quad]\,]$$

↓　　↓

行為者の背景化　　結果状態の前景化

結果述語を含む複合語の場合、下のような概念構造の合成であると考えられる。

(3) a.　項構造　　[Agent]

[Theme]

語彙概念構造　[x　ACT]

[y　BE　AT-z]

b.　項構造　　[Agent,　Theme]

語彙概念構造　[x　ACT]　CAUSE　[y　BECOME　[y　BE　AT-z]]

↓

∅（脱使役化）

以上、本研究では主として日本語の自他交替動詞に対応する中国語の動詞や構文を見てきたが、今後は英語などを含めた、類型論的な観点から自他交替に関する検討を進めていきたい。

謝辞

本研究は、東北大学大学院国際文化研究科言語コミュニケーション論講座において、おもに中本武志准教授の指導のもと書き上げたものである。中本武志准教授からは、言語類型論および日中対照言語学の立場から、本研究を進める上で欠かすことのできない様々なご指摘・ご助言をいただいた。また、同講座の副指導教官のナロック・ハイコ准教授、小野尚之教授、宮本正夫教授からも、指導教官の立場から多くのことを教えていただいた。中本武志准教授からは、主指導教官として指導していただいただけでなく、現在の研究室で学び始めた当初より様々にお世話いただいた。小野尚之教授には、日本語における反使役化と脱使役化に関して大変有益な指摘・ご指導を数々いただいた。以上、指導教官として本研究にのご指導にあたってくださった先生方に、心から感謝の意を表するものである。

また、東京外国語大学の望月圭子教授から、夏休み集中講義で有益なご助言をいただいた。

また、同講座の副指導教官ナロック・ハイコ准教授には、筆者が日本に留学することができて、大学院で研究を始めるにあたり、大変お世話になった。

国際文化研究科・言語コミュニケーション論講座における皆さんとのディスカッションを通して、多くのことを学んだ。2 年間の留学生活を共に歩いてきて、貴重な思い出を作り、ありがたいと思っておる。

本研究は、以上の方々のご助力に支えられて完成することができたものである。ここに、心より感謝の意を表する。

参考文献

Carrier, Jill and Janet Randall. (1992) The Argument Structure and Syntactic Structure of Resultatives, Linguistic Inquiry 23, 173-234.

Cheng, Lisa Lai-Shen and C.T. James Huang (1994) On the argument structure of resultative compounds. In *In Honor of William S-Y. Wang: Interdisciplinary Studies on Language and Language Change*. 187-221. Taipei: Pyramid Press.

Goldberg, Adele E. and Ray Jackendoff (2004) The English resultative as a family of cpnstructions. Language 80, 532-568.

Huang, C.T.J (1987) Remarks on empty categories in Chinese and (in)definiteness. In Eric J. Reuland and Alice G.B.ter Meulen. The representation of (in)definteness, Cambridge, Massachusetts: MIT Press.

Huang,C.T.J (2006) Resultatives and Unaccusatives: a Parametric View. Chinese Linguistics.253:1-43.

Jackendoff, Ray. (1990) Semantic Structures. MIT Press.

Jacobsen.W.M. (1992) The Transitive Structure of Events in Japanese. Kurosio Publishers,Tokyo.

影山太郎（1996）『動詞意味論—言語と認知の接点』くろしお出版.

影山太郎（2000）「自他交替の意味的メカニズム」丸田忠雄・須賀一好（編）『日英語の自他交替』33-70．ひつじ書房.

影山太郎（2005a）「辞書的知識と語用論的知識—語彙概念構造とクオリア構想の融合に向けて」影山太郎（編）『レキシコンフォーラム No.1』65-101．ひつじ書房.

影山太郎（2005b）「結果構文・結果複合動詞の産出と解釈」大石強・西原哲雄・豊島庸二（編）『現代形態論の潮流』115-134．くろしお出版.

影山太郎（2007）「英語結果述語の意味分類と統語構造」小野尚之（編）『結果構文研究の新視点』ひつじ書房.

Langacker, Ronald W. (1990a) Concept, Image, and Symbol: The Cognitive Basis of Grammar. Mouton de Gruyter, Berlin.

Levin, Beth and Malka Rappaport Hovav. (1995) *Unaccusativity: At the*

Syntax-Lexical Semantics Interface. Cambridge, Massachusetts, The MIT Press.

Levin, Beth and Malka Rappaport Hovav. 2005. Argument Realization. Cambridge University Press.

Lindsay J. Whaley (1997) Introduction to Typology, Sage Publications, California.

Li, YaFei (1990) *On V-V Compounds in Chinese*, Language and Linguistic Theory 8, 177-207.

Li, YaFei (1998) *Chinese Resultative Constructions the Uniformity of Theta Assignment Hypothesis.* New Approaches to Chinese Word Formation: Morphology, Phonology and the Lexicon in Modern and Ancient Chinese.

丸田 忠雄（1998）『使役動詞のアナトミー—語彙的使役動詞の語彙概念構造』松柏社.

望月圭子（1990).「日中両語の結果を表す複合動詞」『東京外国語大学論集』 第 40 号: 13-27.

望月圭子（2004）『日本語と中国語における使役起動交替』研究社出版.

中島悦子（2007）『日中対照研究　ヴォイス』おうふう.

Nichols, Johanna, David A.Peterson, and Jonathan Barnes (2004)Transitivizing and detransitivizing languages. *Linguistic Typology* 8.

奥津敬一郎(1967) 「自動詞化・他動詞化及び両極化変形」『国語学』70:46-65, 明治書院. 東京.

小野尚之（編）『結果構文研究の新視点』ひつじ書房.

小野尚之（2005）『生成語彙意味論』くろしお出版.

須賀一好・早津恵美子（編）『動詞の自他』, ひつじ書房.

須賀一好(2000)「日本語動詞の自他対応における意味と形態との相関」, 丸田 忠雄・須賀 一好（編）『日英語の自他の交替』71-110. ひつじ書房.

太田辰夫 (1958) 『中国語歴史文法』 江南書院.

Rappaport Hovav, Malka and Beth Levin (2001) An event structure account of English resultatives. Language 77, 766-797.

申　亜敏 (2005)「中国語の自他と結果表現類型」『レキシコンフォーラム』1 , 231-266.

申　亜敏（2007）「中国語の結果複合動詞の項構造と語彙概念構造」『レキシコンフォーラム』３, 195-229.

申　亜敏（2005）「中国語の自他と結果表現類型」『レキシコンフォーラム』1 , 231-266.
申　亜敏（2007）「中国語の結果複合動詞の項構造と語彙概念構造」『レキシコンフォーラム』3，195-229.
Taniwaki, Yasuko (2006) Resultative verb-adjective combinations as lexical compounds. 『レキシコンフォーラム No.2』251-280. ひつじ書房.
Vendler. Zeno (1967) Linguistics in Philosophy. Cornell University Press.
Washio, Ryuichi (1997) Resultatives, Compositionality and Language Variation, *Journal of East Asian Linguistics* 6,1-49.
Wechsler, Stephen and Bokyung Noh (2001) On resultative predicates and clauses. Language Sciences 23, 391-423.

言語資料
《汉语动词—结果补语搭配词典》1987，北京语言学
『日本語基本動詞用法辞典』大修館書店
『日本国語大辞典　第二版』小学館
『広辞苑　第 4 版』岩波書店

論文内容要旨

現代中国語と日本語における反使役化と脱使役化

国際文化交流論専攻（言語コミュニケーション論講座）

A7KM1020　李　文超

研究の目的

本研究は、日本語研究から得られた知見に基づいて、現代中国語と日本語における自他交替の特徴を比較・対照することにより、先行研究ではあまり取り上げられてこなかった日本語と中国語における反使役化と脱使役化現象を考察し、動詞の意味構造の普遍性と個別性を明らかにすることを目的とする。

研究方法

『日本語基本動詞用法辞典』（大修館書店出版）および、《汉语动词—结果补语搭配词典》（1987，北京语言学院出版社）に収録されている動詞や例文を基礎資料とし、必要に応じて『日本国語大辞典　第二版』（小学館）と『広辞苑　第 4 版』（岩波書店）を参照して、(i) 日本語の自他交替動詞と対応する中国語の動詞リスト、(ii) 日本語の非対格動詞に対応する中国語複合動詞ペアリスト、(iii) 他動詞に対応する中国語複合動詞ペアリスト、(iv) 他動詞用法の結果複合動詞ペアリスト、(v) 自動詞用法の結果複合動詞ペアリストを作成し、詳細な分析を行った。

分析結果

研究方法で挙げた動詞の日中対照リストを基礎的言語資料として使用し、日本語の「反使役化」と「脱使役化」、対応する中国語の「反使役化」と「脱使役化」を比較してそれぞれに語彙的対応、複合語による対応、構文による対応を検討した。3.1 節では日本語の「反使役化」と「脱使役化」に対応する中国語の単音節動詞をみた。3.2 節では結果複合動詞の反使役化と脱使役化を分析した。3.3 節では日本語と中国語における脱使役化を引き起こす構文を考察した。

まず、日本語の自他交替に対応する中国語の単音節動詞には(1)のような動詞がある。

(1) ‘开 kāi’（開ける／開く）／‘关 guān’（閉める／閉まる）

a. 我 {开 / 关} 门.

wǒ {kāi/guān} mén

I {open/close} door

「私はドアを｛開けた/閉めた｝。」

b. 门 {开 / 关} 了.

mén {kāi/guān} le

door {open/close} PERF

「ドアが｛開いた/閉まった｝。」

これらの動詞の特徴は次のようにまとめられる。

1．日本語の自他交替動詞に対応する中国語の単音節動詞は非常に少ない。これはそもそも中国語では単音節動詞を単独で現れることがあまりなく、複合語の一部として用いられることが多いからである。

2．声調や子音交替により自他交替を表す動詞も存在するが、その数は非常に少ない。

3．自動詞化も、「変化対象そのものの内在的性質により、自発的に状態変化を引き起こす」という反使役化に限られる。これは反使役化に相当する語形成が中国語には存在しないことが原因である。

英語には脱使役化が起こらない。影山はこれは英語の自動詞化が形のないゼロ形態によって行われていることに起因するとしている。ゼロ接辞は、せいぜい反使役化の力しかもてないという影山の仮説（影山 1996:188-189）は、中国語の単音節動詞にも当てはまると言えよう。

日本語の自他交替に対応する中国語複合動詞の操作には、反使役化による結果の前景化と脱使役化による動作主の背景化が見られた。また、中国語においては、結果状態や結果位置の存在が反使役化と脱使役化の認可条件になっていることから、完了相（telicity）が重要な役割を果たしていることが分かる。

ただし、反使役化は定義上、対象自身の内在的な性質による変化を表し、使役主と変化対象を同定することによる自動詞化であるため、[Action + Resultative State] というスキーマにおいては、Action が具体性を欠く軽動詞か動作主性の低い動詞に限られる。以下は日

本語の他動詞が中国語の複合動詞「軽動詞＋結果述語」に相当する例である。

(2) a. x <u>CONTROL</u> [y BECOME [y BE AT-<u>z</u>]] ($x = y$)

-e- war-

Ø 碎 suì

玻璃 碎 了

bōlí suì le

glass break PERF

「ガラスが割れた」

b. x <u>CONTROL</u> [y BECOME [y BE AT-<u>z</u>]]

-Ø- war-

打 dǎ 碎 suì

宝宝 打碎 了 玻璃

Bǎobao dǎ-suì le bōlí

baby break PERF glass

「赤ちゃんがガラスを割った」

これに対して複合動詞の脱使役化は次の特徴を持つ。

①単音節動詞の後に‘好 hǎo’‘满 mǎn’‘光 guāng’など「終点、時間量、距離、動作の量、状態、結果」等の「限界点」を表す「補語」が現れる場合

②動作動詞＋結果述語の組み合わせ

いずれも、次のように図式化することができる。

(3) x CONTROL [y BECOME [y BE AT-z]]

↓

x CONTROL [y BECOME [y BE AT- z]]

↓ ↓

行為者の背景化 結果状態の前景化

結果述語を含む複合語の場合、下のような概念構造の合成であると考えられる。

(4) 推开 tuī-kāi（押し開ける）

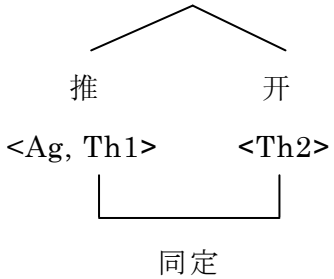
a. 推：　項構造　　[Agent, Theme]

　　語彙概念構造　　[x　ACT ON　*y*]

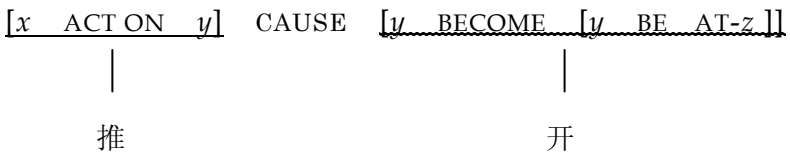
b. 开：　項構造　　[Theme]

　　語彙概念構造　　[*y*　BECOME　[*y*　BE　AT-*z*]]

c. 推开：項構造　　[Agent, Theme]



語彙概念構造



複合動詞の脱使役化は非常に生産的ではあるが、結果述語が内項叙述型であること、主語と変化主体の間に何らかの所有関係が成り立つこと、という制約もある。

構文による日本語の自他交替に対応する中国語の操作では、使役構文、処置文の脱使役化、存現文（PPLOC　V 着/了/满　O)、「在」構文（S　V　O　PPGOAL/SOURCE　→　O　V 在　PP　（PP の位置は P による))、‘得 de’による結果構文の脱使役化（S　把 O　V 得 RESULTATIVE　→　O　V 得　RESULTATIVE）を取り上げた。日本語にも、「テアル」構文が存在するが、これは脱使役化という点で、中国語の「存現文」と共通していることが分かった。

以上、本研究では主として日本語の自他交替動詞に対応する中国語の動詞や構文を見てきたが、今後は英語などを含めた、類型論的な観点から自他交替に関する検討を進めていきたい。